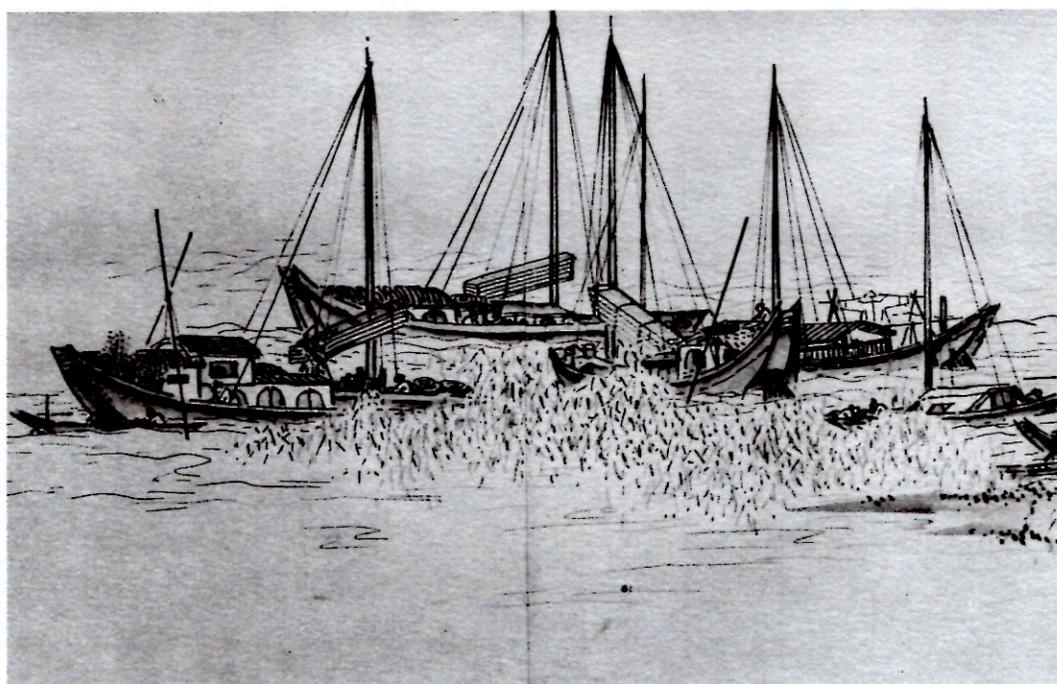


---

春日井市制施行50周年記念行事「Xmasの夕べ」

## 第九 プレ・コンサート

---



- 日時 平成4年9月12日(土) 午後6時30分開演
- 場所 春日井市民会館

主催：春日井市制施行50周年記念行事「Xmasの夕べ」実行委員会

後援：春日井市と春日井市教育委員会

# ごあいさつ

春日井市制施行50周年記念行事

実行委員会 会長 鶴 飼 一 郎



本日は、第九プレ・コンサートによろこそおいでくださいました。  
来年市制施行50周年を迎えるにあたり、「ゆとりある豊かな生活をきずく健康都市・春日井」をめざし、市民とともに来る21世紀に向けて新しい魅力あるまちづくりを推進するため、その契機となる記念行事を企画しました。

このコンサートは、記念行事の中のウインターイベントとして、来年の12月5日総合体育館で公演される、ベートーヴェン作曲「第九交響曲」の成功に向けて合唱団とオーケストラの体勢を整えるため演奏されるものであり、春日井市民による手づくりの、そして初めての試みです。

それでは、第九合唱団の爽やかな歌声と華やかで迫力のある春日井市交響楽団の奏でる名曲の数々をじっくりとお楽しみください。

# ごあいさつ

春日井市制施行50周年記念行事

『Xmasの夕べ』実行委員会事務局長 三浦昌夫

本日はたくさんみなさまにおいでいただきありがとうございます。

来年の6月には、私たちの春日井市が、めでたく市制50周年を迎えます。多くの市民のみなさまから、「この記念すべき年にベートーヴェンの『交響曲第九番』を演奏してお祝いしよう」というお話が出てきました。嬉しいことに、市も市内の合唱団も春日井市交響楽団も大賛成でしたので、早速、この6月に一般の市民の方たちに呼びかけました。たちまち、二百名以上の方がお集まり下さり、「ぜひ、やりましょう」とここでも賛成を得ましたので、もっと多くの方からなる『第九合唱団』を正式に作り、来年（平成5年）の12月5日（日）を『春日井市《第九》演奏会』開催日と定め、次の4月から練習を始めよう、ということになりました。

このプログラムの「合唱団員募集要項」をお読みいただき、みなさまも、ぜひ、『第九』演奏会にご参加下さいますようお願いいたします。年齢・経験などいっさい問いません。参加費も、楽譜代など一部の実費をのぞいて、無料です。たくさんみなさんのご参加をお待ちいたしております。

さあ、今夜、1年以上にわたる『第九』マラソンのスタートを告げる号砲が鳴らされました。本夕の『第九』プレコンサートは、私たちの『『第九』開幕宣言』であり、私たちから市民のみなさまへの「『第九』を一緒に歌いましょう招待状」でもあります。これからも、市民参加の『第九』を盛り上げる、こういったさまざまな催しを開いていきたいと思っておりますので、ご参加・ご協力下さいますようお願いいたします。

では、ごゆっくりお楽しみ下さい。

## 歓喜は神々の火花である

同音楽監督 都築正道

ベートーヴェンの『第九交響曲』は、「歓喜は神々の火花である」という有名なシラーの詩で始まる。難解で知られる『歓喜に寄する頌歌』だが、この一節も特に定まった解釈はない。例えば——硬い鉄と鉄を一つにするには、高熱の溶接の火花で二つの鉄をドロドロに溶かしてくっつけばいい。人の心は、それこそ十人十色だ。お互いの心が一つになることはない。もしあるとするならば、多くの人々が同時に大きな喜びの頂点に達したときだ。それは、あなたが結婚したときでも、子どもが生まれたときでも、春日井市が五十才の誕生日を迎えたときでもかまわない。私たちは、肩をたたき、抱き合い、腕を上げ、声を出して叫ぶ……「私たちの心を溶かして一つにしたこの喜びよ、神々の火花よ」と。

そして、「私の音楽は心から心へ行って欲しい」とベートーヴェンはいう。なんの媒介もなしに、純粹に音楽だけを！ 弟子の一人がシェーンベルクに訊ねた、「なぜ、ベートーヴェンは交響曲に声楽など加えたのでしょうか」。彼は答えた、「言わねばならぬことがあったのだ」。

そう、ベートーヴェンは、人類に向かってなにか言わねばならぬことがあったのだ。それがなんであるかを知るのとは簡単だ。『第九』を歌ってみさえすればいいのだから……。そして、共に感動しさえすればいいのだから……。

あなたの参加を期する由縁である。

# プログラム

## 第1部

A. ドヴォルザーク作曲

交響曲第九番 ホ短調 op.95 「新世界より」

指揮：横井園生

+++++ 休 憩 +++++

## 第2部

J. シュトラウス二世 作曲

ワルツ 美しく碧きドナウ op.314

春の声 op.410

J. シベリウス作曲

交響詩 フィンランディア op.26-7

ソプラノ：水谷朋子

指揮：都築正道

合唱 「Xmasの夕べ」 第九合唱団

管弦楽 春日井市交響楽団

## 曲目解説

生田 創

### ■ドヴォルザーク (1841-1904)

#### 交響曲第9番 ホ短調 作品95 「新世界より」

アントニン・ドヴォルザークは終生故郷ボヘミアの地を愛して止みませんでした。

ボヘミア（今のチェコスロヴァキア）のモルダウ河畔の一小村に生まれたドヴォルザークが世界に誇る大作曲家となる生涯は、音楽史にまれな「幸福の生涯」として位置づけられます。旅籠屋兼肉屋の子として育ったドヴォルザークは、頻繁に訪れる音楽家たちの演奏を聴いて、その地の土着音楽に馴染み、同時にヴァイオリンを覚えていきました。ときにはかれらの演奏にあわせて舞踊を披露したりもしました。このように音楽に触れる機会に恵まれた環境にあったドヴォルザークが、後に作曲家として活動するうえでこれらが基盤になったことは言うまでもないでしょう。母なる地ボヘミアの子守歌を聴いて育ったドヴォルザークは、美しく印象的な旋律、バランスのとれた音楽を創造する作曲家として最高峰の一人に数えられています。

プラハのオルガン学校を卒業し、同市国立劇場管弦楽団でヴィオラ奏者として働きつつ作曲活動に精進していたドヴォルザークは、ついにリストやブラームスに才能を認められその名声はヨーロッパのひにとどまらず、新大陸にまで及ぶことになりました。1892年9月、招かれてニューヨークのナショナル音楽院の院長に就任するべく渡米したドヴォルザークは、その三年間近いアメリカ滞在中にこの交響曲を書きました。この曲のなかで随所に黒人霊歌やインディアンの民謡を思わせる旋律がみられるため、当初批評をはじめ、さまざまな論議を呼びました。しかしドヴォルザークはそれらの民謡をそのまま取り入れたのではなく、その精神を自己表現のなかに反映させました。故郷からはるか遠く離れたこの地で、望郷の念とともにインディアンや黒人の音楽にボヘミアの民族音楽に類似点を見出だしたことがこの交響曲の創作意義の中核となったのです。ドヴォルザーク自身「この曲の民族的な要素は祖国愛から生み出したチェコ音楽ではあるが、アメリカの体験無くして生みだし得なかったもの」としています。

1893年12月16日、ニューヨークのカーネギー・ホールにてニューヨーク・フィルハーモニック協会管弦楽団、アントン・ザイドル指揮によって初演がおこなわれ、ホールははじまって以来という大成功を収めました。

- 第一楽章 序奏 アダージョ ホ短調 4/8拍子——主部 アレグロ・モルト ホ短調 2/4拍子 ソナタ形式
- 第二楽章 ラルゴ 変ニ長調 4/4拍子 複合三部形式
- 第三楽章 モルト・ヴィヴァーチェ ホ短調 3/4拍子 スケルツォ
- 第四楽章 アレグロ・コン・フォーコ ホ短調 4/4拍子 ソナタ形式

## ■ヨハン・シュトラウス二世 (1825-1899)

### ワルツ「美しく碧きドナウ」作品314

19世紀も半ばに入り、ヨーロッパではイタリアとドイツがいよいよ統一の機運を強めてきました。それまでヨーロッパ大陸をリードしてきたオーストリアにとってこの動きは脅威でありましたが、やがてプロシアの首相ビスマルクの鉄血政策のもとに完全にひれ伏すことになりました。相次ぐ敗戦の結果、首都ウィーンには負傷兵が充満し、かつての栄光はもはやなく、ついにオーストリアはヨーロッパの中で孤立することになりました。

人々が深い悲しみの淵に沈んでいるなか、ウィーンの内自然はいつもと変わらぬ美しさと生命力に満ちていました。永遠に途絶えることのない輝きをもつドナウの流れ、シュトラウスはこのウィーン人の心のふるさとに、人々に与える明るさと勇気を見いだして、音楽にしました。そしてカール・イジドル・ベックの詩の一句を曲名として完成したこの作品は〈ワルツ王〉の名に相応しい豊かな表現力を持っており、シュトラウスの作品中最もポピュラーな曲として親しまれています。

### ワルツ「春の声」作品410

1883年2月、喜歌劇「愉快な戦争」を指揮するためにヨハン・シュトラウスはハンガリーの首都ブダペストに滞在していました。そしてある晩餐会に招かれ、そこでフランツ・リストと同席することになりました。もともと知り合いであった彼らは、晩餐が終わるとまずリストがその家の女主人とピアノの連弾曲を披露し、シュトラウスがその曲をもとにワルツの即興演奏をしたりしました。すると一つの曲がまとまってきました。シュトラウスは結局、その晩のうちにこれを完成させピアノで弾いてみせました。それが「春の声」です。当時ヨハン・シュトラウスは58歳でしたが、この曲にはそうとは思えないほどの若々しさ、跳躍感に溢れています。

のちにこの曲はリヒャルト・ジェナーによって詞がつけられ、名コロラトゥーラ(ソプラノ)ピアンカ・ピヤンキによってアン・デア・ウィーン劇場でのリサイタルで歌われ人気を集めました。

## ■シベリウス (1865-1957)

### 交響詩「フィンランディア」作品26-7

シベリウスを生んだ国フィンランドは、その歴史をさかのぼっていくと「支配され続けた歴史」であることが分かります。13~19世紀初頭はスウェーデン支配下の大公国、1808年ロシアの侵入に敗戦し、その支配は1917年のロシア革命まで続きました。

シベリウスは大自然に包まれたこのフィンランドの大地を愛していました。14才の時のヴァイオリンとの出会いは音楽という手段による自己表現のはじまりとなりました。20才を越えてようやく作曲活動を始め、ベルリン、ウィーンに留学し、多大な影響を受けて彼は帰国しました。その当時フィンランドでは、帝政ロシアによる属領政策が行われフィンランド国内では愛国独立運動が高まっていました。シベリウスはこれらの運動を積極的に支持し、留学における成果を愛国心で示しました。文化行事によって民族精神を高めようという風潮のなか、民族歴史劇「いにしえからの情景」上演に付随する音楽を担当することになったシベリウスは、後にその終曲を独立させました。これがシベリウスの作品中もっとも有名となった交響詩「フィンランディア」です。

なおこの曲の中間部の旋律は今日「フィンランディア賛歌」という合唱曲としてフィンランド第二の国歌のように歌われています。今回はこの部分を含めて日本語の歌詞で聴いて頂きましょう。

## 演奏団体と演奏者紹介

### 『Xmasの夕べ』第九合唱団

「地元春日井で、ぜひ『第九』を歌いたい」という音楽愛好家の夢が、ついに市制施行50周年を前に現実のものとなりました。「音楽都市春日井」といわれるほど、優れた合唱団も多く、たくさんの方の演奏団体や音楽鑑賞団体もいつも活発に活動をつづけていて、「春日井で『第九』を」は春日井市民の見果てぬ夢でもありました。まず、発起人の人たちによって作られたのが、この『Xmasの夕べ』第九合唱団です。『第九』演奏会までにまだ1年以上あります。そして、「この1年を大切に、もっとたくさんの方みなさんにご参加いただいて、素晴らしい音楽会にしよう」と計画されたのが、この『第九』プレコンサートです。今回は、女性だけの参加となりましたが、「オーケストラの伴奏で歌えるなんて、もう最高！」と出演者は大喜び。「みなさんも、来年の12月には、ここで一緒に歌っているつもりになってお聴きになって下さい」と、会長の荒川昭代さん。

### 春日井市交響楽団

平成2年10月に、初心者でも小学生でも参加できる「アマチュアの市民オーケストラ」として八十名で結成されました。愛称は「カポ」（春日井フィルハーモニー・オーケストラの略）。翌年の平成3年1月に、「創立記念演奏会」を総合体育館で行いました。二千名以上の市民のみなさまの前で、国際的なピアニスト杉谷昭子さんをソリストに迎えてベートーヴェンの『ピアノ協奏曲第3番』と浜田一馬さんの指揮で自作の『交響曲第6番』を演奏して大きな産声をあげました。今年（平成4年）の1月には「第1回定期演奏会」を市民会館で開き、ベートーヴェンの『交響曲第5番・運命』などを演奏しました。創立3年にしていよいよ念願の最高の名曲で最大の難曲『第九』に挑戦しますが、そのためには、さらに演奏技術と団員数を飛躍的に向上させなければなりません。この「プレコンサート」をはじめ、次の定期演奏会・「市庁舎ホールでのお昼のコンサート」の出演・団内演奏会・学校訪問などを計画しています。「団を支えて下さる賛助会員も増え、市民の合唱団とも共演できて市民のオーケストラらしくなってきました」と、団長の花村浩克さん。

### 横井園生（指揮）

この地方を代表する指揮の第一人者で、多くの業績と多くの経験と多くの弟子と多くのエピソードと多くのファンと多くの置き忘れた帽子を持つ。東京音大（現東京芸大）在学時代からガンディで知られるが、音楽作りは、モットーの「つねに音にこだわれ！」が示すごとく厳格そのもの。名古屋音楽大学名誉教授で、先の5月に愛知厚生年金会館でおこなわれた同大の「同窓会設立10周年記念演奏会」では、教え子と共にブルックナーの『交響曲第4番』を熱演して大好評をえる。カポの技術的・精神的支えとして団員の信頼も厚く、来年1月のカポの第2回定期演奏会での指揮も予定されている。

### 都築正道（指揮・春日井市交響楽団音楽監督）

朝日新聞の辛口の音楽評を左手で書き、カポの指揮を右手でして、「右手のなすことを左手に知らせるなかれ」とする聖句実践者。指揮を横井園生氏に師事するが、「あんなことを教えた覚えはない」と時々師を嘆かせている。中部大女子短大で音楽と美学を教えている。

### 水谷朋子（ソプラノソロ・合唱指導）

たくさんの方の舞台上で活躍をつづける優れたソプラノ歌手。男性的な明るい性格と動物的な厳しい練習で合唱指導にも定評があり、急編成の『第九』合唱団を、わずか2ヵ月でステージに立たせた功績は大きい。

## 「第九演奏会」の参加者募集について

平成5年12月5日に開催を予定している、春日井市制施行50周年記念行事のウインターイベント「Xmasの夕べ」実行委員会では、第九演奏会の参加登録者を募集しています。

(第九の練習は平成5年4月からを予定しています)

### (1) 合唱団員募集要項

官製はがきに①郵便番号②住所③氏名④生年月日⑤性別⑥職業⑦合唱経験・第九経験の有無⑧ソプラノ・アルト・テノール・バス・未定の別を書いて事務局までお送りください。折り返し、くわしいご案内をさしあげます。

### (2) オーケストラ参加者募集要項

合唱団の募集に併せて、下記楽器のオーケストラ要員も募集します。

楽器をお持ちのかたで、練習に参加できるかたをおまちしています。希望者は、同じく官製はがきに①郵便番号②住所③氏名④生年月日⑤性別⑥職業⑦演奏可能楽器⑧経験の程度⑨プロ・アマの別を書いて事務局までお送りください。折り返し、オーディション等の日程をご連絡いたします。

(オーケストラについては、各パートの定員の関係上、楽器によっては参加できない場合がありますので、ご了承ください)

### ●オーケストラ募集楽器

**弦楽器** (バイオリン科・ビオラ科・チェロ科・コントラバス科)

**管楽器** (オーボエ科・クラリネット科・ファゴット科・ホルン科)

**打楽器**

「Xmasの夕べ」実行委員会事務局

〒487 春日井市松本町1200番地 中部大学内



**KASUGAI50**